

本活活

傳名

櫛櫛

漱川

如翠玉瓶

初編

探因含好文作

一勇高園芳画

榮文堂文庫

山本



与活情

浮名横櫛

物語上巻

川瀬川如華系

様田舎好文化

一勇齋國芳画

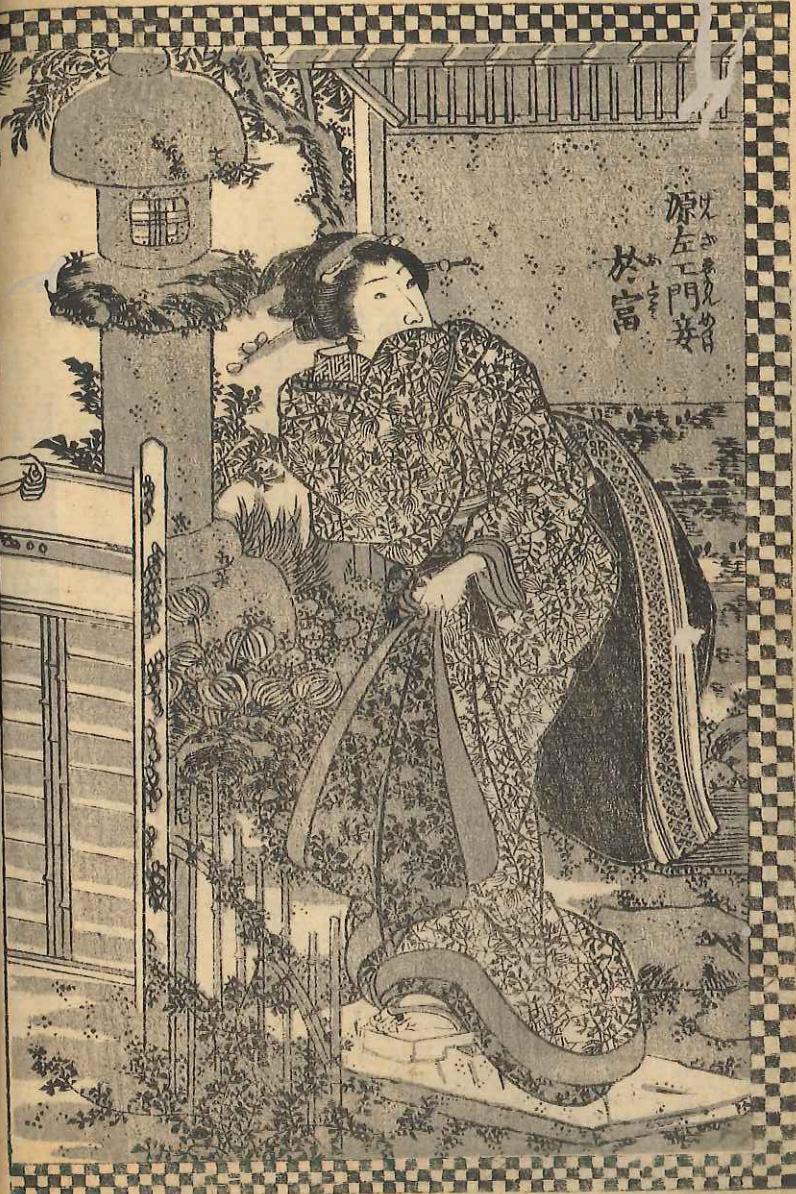
篆久堂様

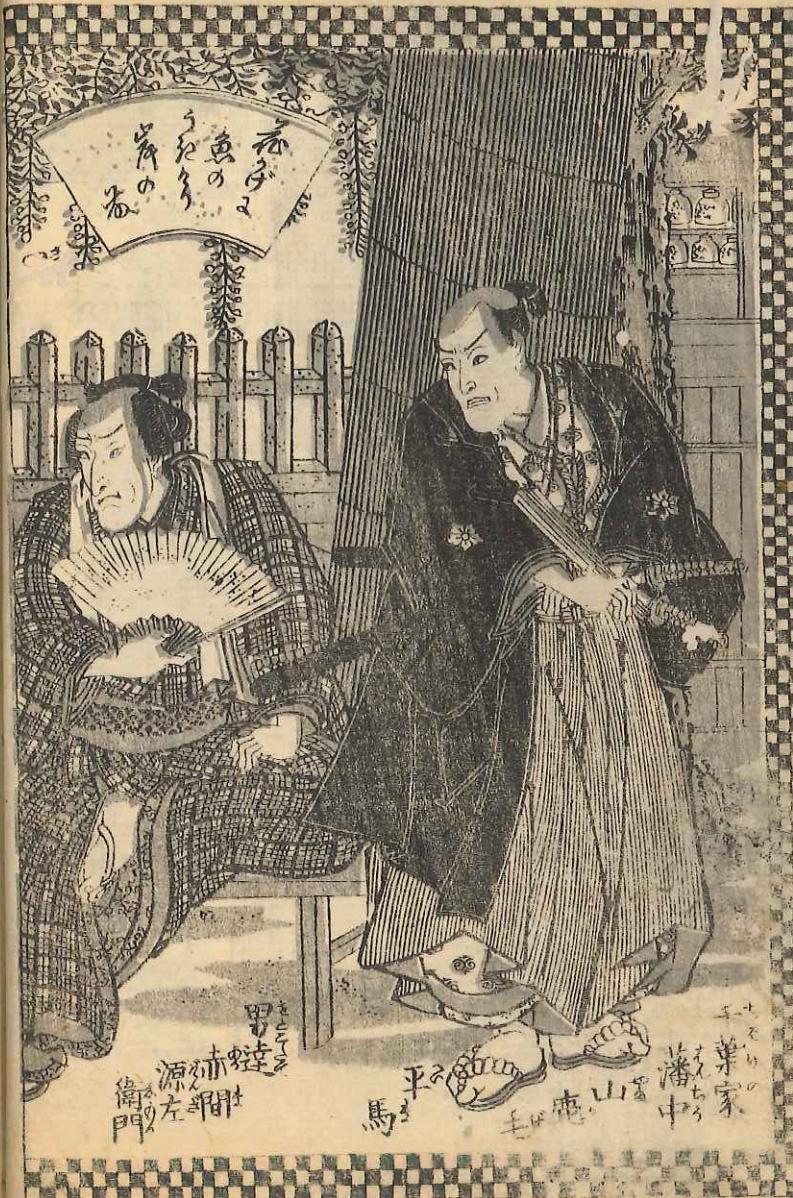
日新而又日新うゝとハ実不當時の流行都の東が  
かあねが一めにきと好む中やも水無月の冰なりえ  
嚴寒の比より鷺を轉せ弥生の中旬小ハ初鯉と水と  
欲今出の人情既ふ是うる於登美う三郎の小説奇談め  
往昔うりかうつて一鎌倉時代の事うる古うれと  
りゆく新うき妓戯の花を折てて瀬川大人の  
新規の寵愛との初物とと蟹ふひう樂久堂の  
需ふうり勇齋の調進方ふうひづると造る  
荒割早い所へ賞取と交作合ひる洋うまば僕ハ  
素うり持元の伴僕うん

千吉嘉永六繪

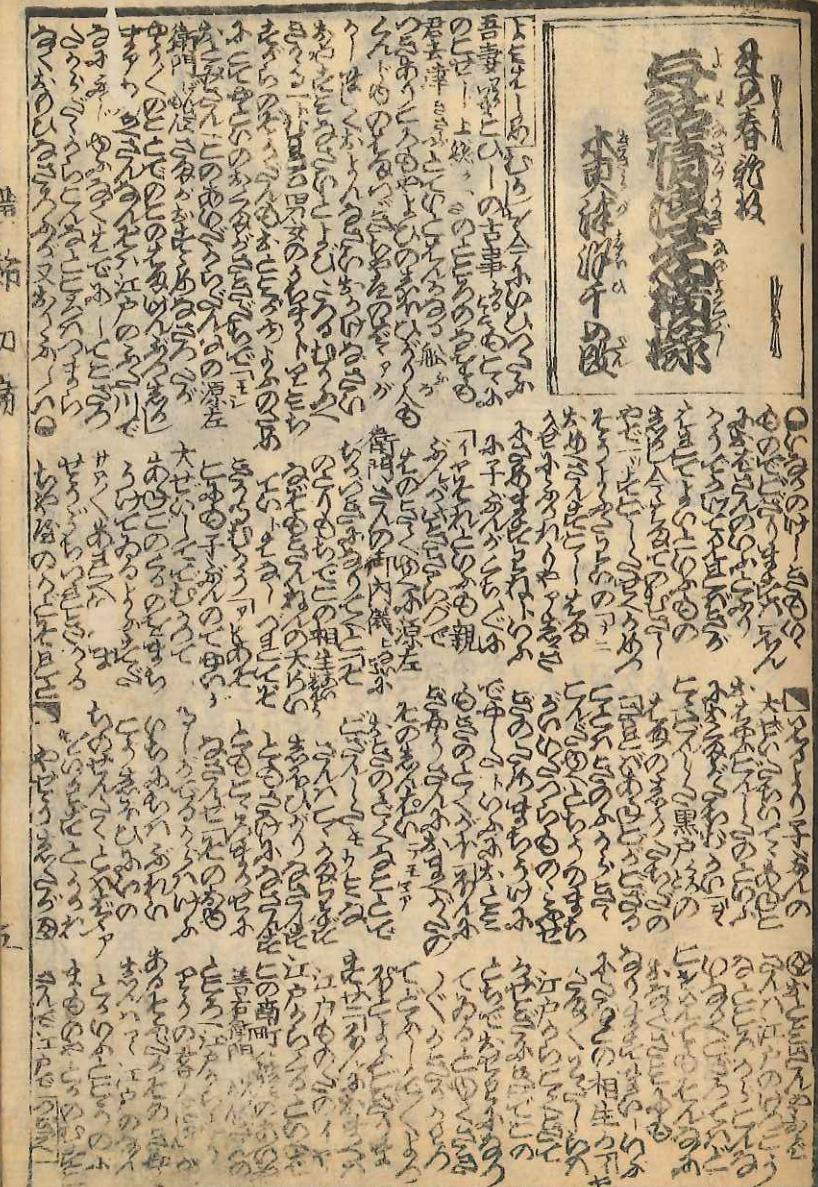
癸丑弥生日發市

四様田舎好文誌











黒井のつるい  
あらうとうとがーふ  
ね酒どくまきの  
こところぱうりもの  
でんじよも魚の  
魚うけうて  
ん身のあらうか  
ちそじてあきは  
あらうあのさに  
あらうや  
さうくとがんの  
ものうまいひの  
をみてをうと  
ゆくわうせ  
の息子もも  
う羽子び  
とみ唐揚げふ  
上にいのいのい  
あきめいものせ  
みくろまで五  
かわせまよ江や仕  
てびうのうわ  
もつかまうわ  
シトカサ









○

あまあ三入のりかよすのひうかをなひて  
よねらむかに  
ほひてじゆうをひ  
ちゆうじゅうのり  
よひどくと  
まかひのうの  
下むと



花紅葉解脫絵川 三冊  
梅蝶樓國貞画

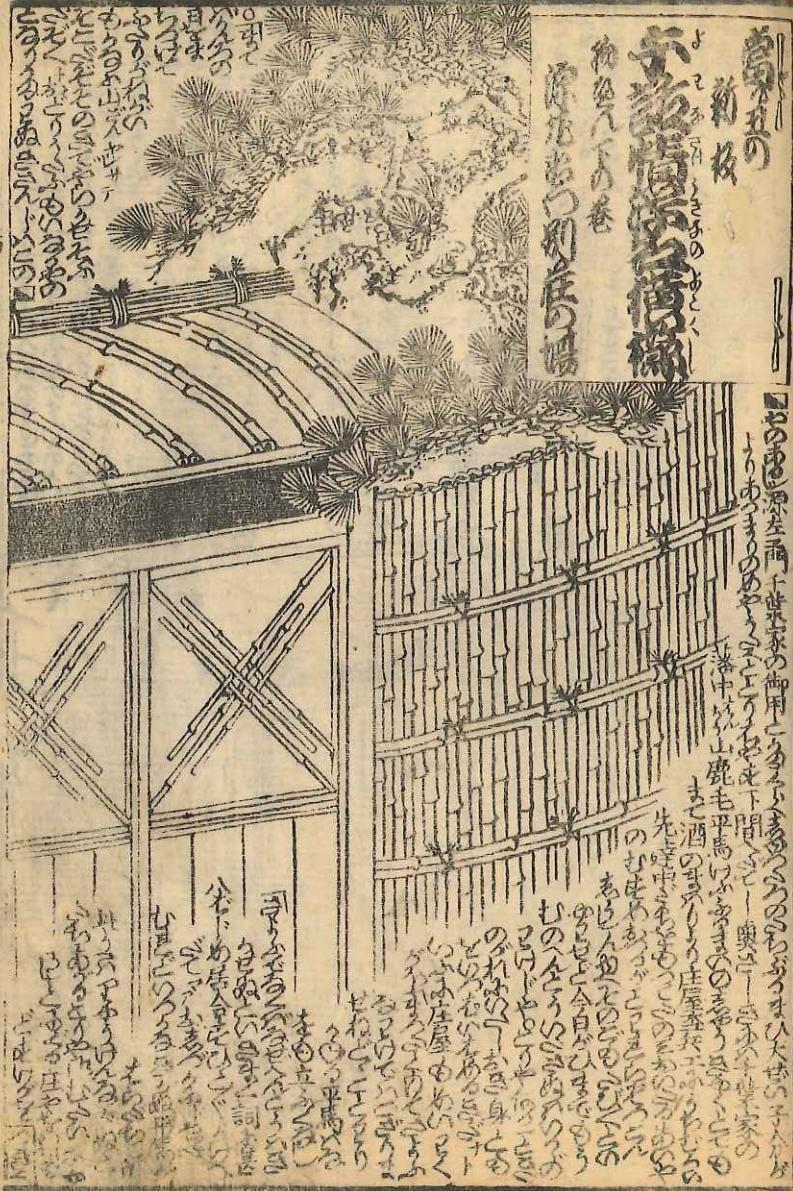
近日賣出一冊

桝田舎好文作

國芳画

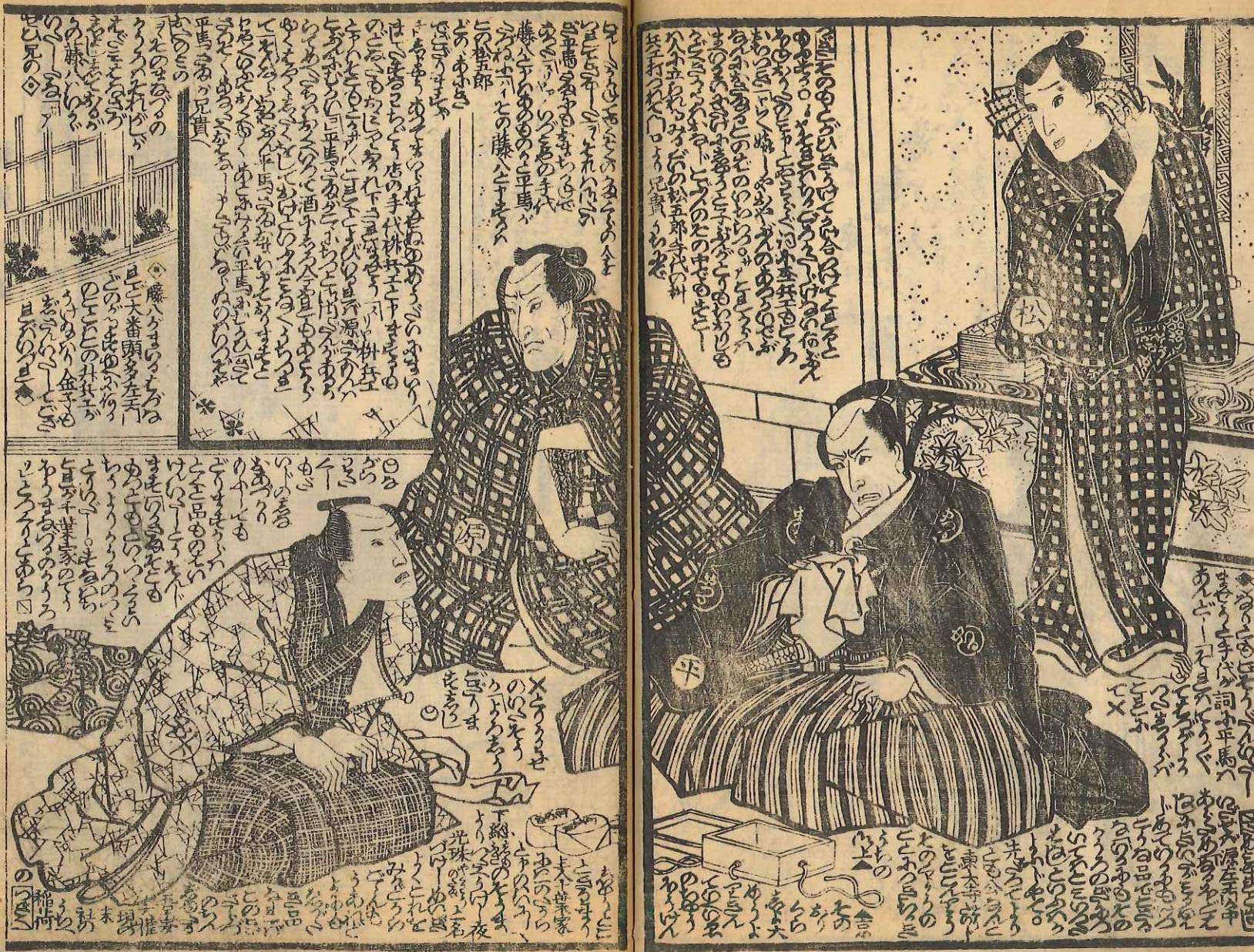
好文作

公事はそぞろの甚はがをくーふ  
うのとどまるこもつてこふ  
てあらこすもあくと  
きをねらうりゆー  
男かのあをもる江戸  
えへくあーテのうの  
うと西へむれいをもる  
てるのうちふとの是へがわう  
あるくべやこのうひうの  
あるてふ江戸の云々へどん  
のよんやせんの人の目ま  
わらをのけし遠寺院  
つるのねから入相にタ  
く見ひてふものふいとくさ  
まひふわひまうとく  
まうとく









雪工の事あらわす  
金をあらわす  
金をあらわす

馬がいふを富山が  
馬がいふを富山が  
馬がいふを富山が













相  
手三郎が与よめのせきま  
大切に近づけひだりをさす  
續編仕合写物平  
より△和日  
手三郎△永當△  
内為伴△希志△坐△



作者口上  
板の初編の趣あまりよく思ひうる程  
りとおひら右へ狂言の仕込みふじふすと見  
猶然と持きくもよう嗣編 おりうでんを三郎  
かふーの契りよりあやうき  
いのもうものかうふすうてす  
れすわふ源氏店のひきゆく  
きて實母のふくらむわふ△

# 好文作 国芳画



好文作  
好文作

國芳画

市本平吉校

